



# こよみ

気仙沼向洋高校PTA会報

No.21

平成24年3月1日発行



平成 23 年度卒業生



## 復興の原動力に

PTA会長 熊谷 英明

本年も春の便りとともに卒業を迎える季節となりました。三年生の皆さん御卒業おめでとうございます。震災からちょうど一年、学び舎を失った我が校では三校分散しての学校生活を余儀なくされ、十一月からようやく仮設校舎での新たな出発を迎えることができました。在校生、教職員の方々、そして御家族

の皆様にとりましても大変な一年を過ごされたことと思います。秋から始まった就職・進学活動では就職氷河期と言われている中、ほとんどの生徒の進路が順調に決まるというすばらしい結果となりました。子供達の努力もさることながら、先生方の御指導の賜物と感謝し保護者を代表してお礼を申し上げます。卒業生

の皆さんはこれから社会人としてさまざまな分野で御活躍されることと思います。特に三陸の復旧・復興には十年とも十五年かかるとも言われている中、向洋高校での経験を土台にした皆さんの若い力が復興の原動力になることと期待致します。PTA会員の皆様には震災の中PTA活動に多大なる御協力を頂きましたことに感謝申し上げます。そして気仙沼向洋高校が一日も早く新天地が決まり新しい向洋高校の再出発が出来ますようお願い申し上げます。一年間有難う御座いました。



## この経験を糧に

校長 瀬戸 巳治雄

平成二十三年の年が改まり、大変な思いをされた方々が、震災の悲劇から一歩前に踏み出し、復興に向けて新たなスタートを切ることを願ってやみません。

さて、生徒諸君も大きなトンネルを抜けきった感覚があり、改めて向洋生の底力に感服しています。昨年来、学業に、部活動に良く取り組んでくれたこともあり、その成果

が本校生に大きな恵みをもたらしたことを実感しています。今後諸君は如何なる思いで旅立とうとしているのでしょうか。恐らくあの大変な時期を過ごした人たちに共通する「原点回帰」の思いでこれから多くの苦難を乗り越えていくものと思われまます。これらの強さは、決して自然に備わるものではなく、この震災を乗り越えた者にだけに与

えられるものではないかと思われまます。この力をこれからの「人生の糧」として大いに羽ばたいて行かれることを期待しています。  
今卒業に当たって、皆さんに望むことは、ただただ健康に過ごして欲しいということだけです。これは親の思いと共通するものと思いますが、これからの人生の中で、ある種の迷いに遭遇するようなことがあったとしても、必ずあの大震災を乗り越えた経験を生かし、力強く困難を克服して欲しいと思います。「皆さんの前途に幸多かれ」と祈り、卒業生をお送りします。

# PTA指導者 本吉支部研修会報告

十一月十七日、気仙沼西高校合同講義室を会場に、今年度の支部研修会が開催されました。

震災の影響で市民会館や中央公民館等が使用不能であり、多くのPTA会員が被災していることから、今年度は最小限での実施となりましたが、平日の夜にもかかわらず、五十五名の参加者がありました。本会からは熊谷会長以下役員五名と学校から武田教頭と事務局二名の八名が参加しました。

開会行事に続いて、講演、研究協議と進められました。講演では、臨床心理士で日本体育大学講師の金屋光彦氏を講師に『く保護者応援メッセージ』子どもの自立を親のあり方について』の題でお話いただきました。

研究協議では、気仙沼高校の熊谷PTA会長による話題提供に続いて、各校の会長による情報交換が行われました。震災以降、各校とも苦労されている様子がうかがえました。

# 特別賞受賞！

平成二十三年度  
県高P連広報誌コンクール



先日行われた、平成二十三年度宮城県高P連広報誌コンクールで本校『こうよう』が特別賞を受賞しました。

このコンクールは、「模範的な広報誌を選出することで、広報誌の編集だけでなく、PTA活動の活性化に役立てる」ことを目指して毎年行われています。

県内各地区の選考会を経て選ばれた二十誌を審査し、優秀五誌が選出されました。残念ながら優秀作品には選ばれませんが、石巻高校『あさしお』、石巻商業高校『ふれあい』とともに特別賞を頂戴しました。

今回の特別賞は今年度限りのものですが、今後とも読みやすい紙面作りを目指していきたいと思えます。

# 佐藤真海さん

# （本市出身・パラリンピック代表）来校

サントリー・SCJ

水産業復興奨学金贈呈式

二月二日、サントリーとセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（SCJ）による水産業復興奨学金の贈呈式が行われました。この奨学金は、青森、岩手、宮城、福島の水産高校及び水産学科に在籍している、東日本大震災で被災した生徒を対象としたものです。本校からは本科生・専攻科生併せて六十八名が申請し、全員の給付が認められました。二〇一二年度より給付が始まりますが、今年度在学生に対しては一時金として十万円が給付されました。

贈呈式では、サントリーホールディングス株式会社執行役員の濱岡智氏、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン事務局長の渋谷弘延氏のご挨拶に続いて、生徒を代表して産業経済科二年藤崎百紀さんが、挨拶と御礼の言葉を述べました。その後、本市出身で、サントリービジネスエキスパート株式会社社員で、アテネ・北京パラリンピック日本代表の佐藤真海さんから励ましの言葉を頂戴しました。佐藤さんは自らの体験を元に、あきらめない



ことの大切さを話されました。佐藤さんのお話に続いて、目録のパネルと佐藤さんの著書『夢を跳ぶパラリンピック・アスリートの挑戦』が藤崎さんに手渡されました。

※「新聞の報道でこの奨学金について初めて知った、今からでも申請できないのか」との問い合わせを数件いただきました。SCJ事務局に確認したところ、来年度入学生が申請手続きを行う際に申請可能との回答をいただきました。後日ご案内いたします。

# 海外からも支援の手が

本校への支援状況続報

本校への支援状況について、前回『こうよう』二〇号でもお知らせしましたが、それ以降も学校や生徒に対して、国内のみならず、海外からも数々のご支援が寄せられています。

経済同友会から中型バスや理科の実験台、物品棚などをご支援いただきました。銀座ロータリークラブ・気仙沼南ロータリークラブからは、野球部へピッチングマシン等の寄贈を受けました。海外からはオーストラリアの三つの高校から支援金、ニュージールランドからは複数のクラブチームからラグビーの用具をいただいております。詳細は次のページの表のとおりです。





### 本校への支援状況 (平成23年11月以降)

	支援者・支援団体	内容	備考		支援者・支援団体	内容	備考
1	(財)日本教育公務員弘済会	一時金	学校推薦者	15	福山暁の星女子高校	支援金	教育振興会
2	気仙沼ロータリークラブ	一時金	学校推薦者	16	新日本婦人の会	支援金	教育振興会
3	公益財団法人奥田育英会	震災孤児一時金	震災孤児	17	兵庫県立須磨友が丘高校	支援金	生徒会
4	NPOカタリバ	支援金他	教育振興会	18	神奈川県立柏陽高校	支援金	生徒会
5	アディダスジャパン	リーボックススニーカー	生徒全員	19	静岡市社会福祉協議会	支援金	生徒会
6	デイサービスほのぼのの郷	マフラー	生徒希望者	20	熊本県立球磨工業高校	支援金	生徒会
7	関係者有志・一般者	支援金	教育振興会	21	オーストラリア カムデン高他全3校	支援金	生徒会
8	高岡整志会病院	支援金	教育振興会	22	東北大学理学部化学教室 創立百周年記念事業	実験用ワゴン	学校
9	県立学校事務長会	支援金	教育振興会	23	尼崎北高校同窓会	情報海洋科 機材	学校
10	(株)ルブルターニュ	支援金	教育振興会	24	経済同友会	中型バス、実験 台、物品棚等	学校
11	県水産高等学校長協会	支援金	教育振興会	25	日本地理学会	社会科教材	学校
12	全国高等学校長協会	支援金	教育振興会	26	ワールドビジョンジャパン	体育用品	学校
13	全国事務職員協会	支援金	教育振興会	27	ニューージーランド クラブチーム(複数)	ラグビー用品	ラグビー部
14	松岩復校祈願祭実行委員会	支援金	教育振興会	28	銀座ロータリークラブ・ 気仙沼南ロータリークラブ	ピッチング マシン他	野球部



**柔道部**

**第60回宮城県高等学校総合体育大会柔道競技**

団体戦（畠山 颯 阿部佳彦 熊谷和紀 鈴木 太 小山浩昂）  
予選 ○気仙沼向洋 5-0 柴田農林●  
●気仙沼向洋 0-5 仙台育英○  
決勝トーナメント1回戦  
●気仙沼向洋 0-5 高専名取○

ベスト30

**全国高等学校柔道選手権大会宮城県大会**

60kg以下級 小山浩昂 ベスト32

**大久杯**

団体戦（鈴木晃太郎 鈴木 太 小山浩昂 菅井楨太郎 小野寺一馬）  
予選 ○気仙沼向洋 3-2 仙台南●  
●気仙沼向洋 1-4 宮城工業○  
予選敗退

**県新人戦**

団体戦（鈴木晃太郎 小山浩昂 菅井楨太郎 小野寺一馬）  
予選 気仙沼向洋 2-2 仙台工業  
●気仙沼向洋 0-5 柴田○  
●気仙沼向洋 0-4 加美農業○  
決勝トーナメント1回戦  
●気仙沼向洋 1-4 東北工大高○

ベスト10

**国民体育大会宮城県予選**

個人戦 60kg以下級 小山浩昂 ベスト32  
73kg以下級 鈴木 太 ベスト16  
菅井楨太郎 ベスト32

**東北大学柔道部青葉杯**

気仙沼高校との合同チームとして参加  
予選リーグ敗退

**相撲部**

**第60回宮城県高等学校総合体育大会相撲競技**

団体戦 第3位 （東北大会出場）  
無差別個人選手権 第6位 尾形 彪

**第64回東北高等学校相撲選手権大会**

団体戦 予選リーグ敗退

**第52回宮城県高等学校相撲新人大会**

団体戦 第4位  
個人100kg未満級 第3位 村上耕一

**卓球部**

**本吉支部総合体育大会**

団体 2位  
個人 シングルス 2位 日野拓洋  
ダブルス 1位 佐藤和文 日野拓洋

**本吉ジュニア予選**

シングルス 2位 熊谷和希  
3位 小野寺航

**本吉支部新人大会**

団体 3位  
個人 シングルス 2位 小野寺航  
3位 熊谷和希

**テニス部**

**第60回宮城県高等学校総合体育大会**

**テニス競技**

男子団体戦  
1回戦 ●気仙沼向洋 0-2 仙台商業○  
女子団体戦  
1回戦 ●気仙沼向洋 0-2 仙台二○

**平成23年度宮城県高等学校新人大会**

**テニス競技**

男子団体戦  
1回戦 ●気仙沼向洋 1-4 東北学院  
榴ヶ岡○

**女子団体戦**

1回戦 ●気仙沼向洋 0-5 仙台東○

**男子バスケットボール部**

**第60回宮城県高等学校総合体育大会**

**バスケットボール競技**

2回戦 ●気仙沼向洋 64-112 名取北○

**平成23年度宮城県高等学校新人**

**バスケットボール大会本吉支部予選**

○気仙沼向洋 106-59 東陵●  
○気仙沼向洋 100-47 本吉響●  
●気仙沼向洋 43-106 志津川○  
●気仙沼向洋 45- 89 気仙沼○  
(県大会出場)

**女子バスケットボール部**

**第60回宮城県高等学校総合体育大会**

**バスケットボール競技**

1回戦 ○気仙沼向洋 46-28 鹿島台商業●  
2回戦 ●気仙沼向洋 26-93 東北生文大高○

**平成23年度宮城県高等学校新人**

**バスケットボール大会本吉支部予選**

●気仙沼向洋 24-131 気仙沼○  
●気仙沼向洋 17- 95 志津川○  
●気仙沼向洋 16-102 気仙沼女子○  
●気仙沼向洋 38- 87 気仙沼西○

**バドミントン部**

**第60回宮城県高等学校総合体育大会**

**バドミントン競技**

男子団体  
1回戦 ●気仙沼向洋 0-3 大河原商業○

**部 活 動 報 告**

男子ダブルス 小山卓摩・小野寺嵐士  
ベスト64

男子シングルス 小山卓摩 ベスト32  
(国体予選出場権獲得)

**女子団体戦**

1回戦 ○気仙沼向洋 3-1 志津川●  
2回戦 ●気仙沼向洋 0-3 尚綱学院○

**国体予選**

男子シングルス  
1回戦 小山卓摩 1回戦敗退

**東北地区選手権（県新人大会東北地区予選）**

男子ダブルス 畠山慶大・阿部晋平  
(県大会出場)

**県新人大会**

男子団体  
1回戦 ○気仙沼向洋 3-1 築館●  
2回戦 ●気仙沼向洋 0-3 聖和学園○

**男子バレーボール部**

**第60回宮城県高等学校総合体育大会**

**バレーボール競技**

1回戦 ●気仙沼向洋 0-2 仙台二○

**第64回全日本バレーボール高等学校男子・**

**女子選手権大会宮城県代表決定戦 兼 第34回**

**仙台放送杯争奪宮城県大会一次予選会**

1回戦 ○気仙沼向洋 2-0 宮城農業●  
2回戦 ○気仙沼向洋 2-0 小牛田農林●  
(一次予選通過)

**第64回全日本バレーボール高等学校男子・**

**女子選手権大会宮城県代表決定戦 兼 第34回**

**仙台放送杯争奪宮城県大会**

1回戦 ●気仙沼向洋 0-2 東北○  
ベスト16

**平成23年度宮城県高等学校**

**バレーボール競技本吉支部新人大会**

○気仙沼向洋 2-0 志津川●  
○気仙沼向洋 2-0 本吉響●  
●気仙沼向洋 0-2 東陵○ 2位

**平成23年度宮城県高等学校**

**バレーボール競技新人大会**

1回戦 ○気仙沼向洋 2-0 岩ヶ崎●  
2回戦 ○気仙沼向洋 2-0 角田●  
3回戦 ●気仙沼向洋 0-2 東北○  
ベスト16

**第51回東北高等学校ヨット選手権大会 兼 第52回全国高等学校ヨット選手権大会 東北地区予選会**

男子FJ級 ソロ競技  
10位 1500艇 高橋亮太 小松一貴  
14位 1355艇 関 康平 小野寺優斗  
23位 1090艇 村上耕一 小山和希  
長根 航 菊田奏一郎

男子デュエット競技 5位  
女子FJ級 ソロ競技 3位  
1721艇 千葉真由子 小野寺柚香  
(インターハイ出場)

女子デュエット競技 5位

**全国高等学校総合体育大会ヨット競技**

女子FJ級 ソロ競技 31位  
1721艇 千葉真由子 小野寺柚香

**女子デュエット競技 23位**

**第66回国民体育大会セーリング競技**

少年少女セーリング・スピリッツ級 26位  
54艇 千葉真由子 小野寺柚香

**平成23年度宮城県高等学校ヨット新人大会**

男子ソロ競技 3位  
1090艇 長根 航 小山和希

**ラグビー部**

**第63回宮城県高等学校新人大会予選リーグ**

●気仙沼向洋 5-34 仙台三○  
○気仙沼向洋 56- 0 合同B●  
○気仙沼向洋 19-17 合同A●  
(決勝トーナメント進出)

**第63回宮城県高等学校新人大会**

**決勝トーナメント**

1回戦 ●気仙沼向洋 0-39 仙台三○  
ベスト8

**第60回宮城県高等学校総合体育大会**

1回戦 ●気仙沼向洋 0-15 合同A○

**第91回全国高等学校ラグビーフットボール**

**大会宮城県予選大会**

1回戦 ○気仙沼向洋 27- 5 東北学院●

1回戦 ●気仙沼向洋 12-22 利府○

**写真部**

**写真甲子園2011（初戦敗退）**

**高校写真部による東日本大震災復興支援プロ**

**ジェクト参加**

**気仙沼西高文化祭（写真展示）**

**第18回宮城県高等学校写真展**

**ハイテククラブ**

**第23回全日本ロボット相撲大会（東北大会）**

1回戦敗退

**気仙沼本吉地区生徒科学研究発表会**

発表テーマ  
「LED制御を使ったクリスマスツリー制作」

**軽音楽部**

**高校対抗バンド合戦**

3年生バンド参加

**気仙沼西校文化祭**

2・3年生バンド参加

**桜ヶ丘祭（本吉響高校文化祭）**

2・3年生バンド参加

**お伊勢浜復興ライブフェスタ**

1・2・3年生バンド参加

**向洋祭**

全バンド参加

**電波研究会**

今年の電波研究会の活動は、ものづくりコンテストへ向けての基礎学習でした。今は一年生二名で活動していて工具などもまだまだ足りなうような状況ですが、なんとか頑張っています。支援して頂いた皆様に感謝しつつ、これからも活動して行きたいと思ます。

**VFC同好会**

震災によって、福祉団体も甚大な被害を受け、例年のような活動を続けることはできなくなりました。主に、災害復興支援などの活動をしました

6月 避難お年寄りの「足湯サービス」の手伝い（落合保育所避難所）

6月 がれきから見つかった物品の洗浄（唐桑体育館）

7月 仮設住宅入居者懇親会の手伝い（反松公園仮設住宅）

8月 被災前の気仙沼模型作りと奈良県高校生との交流（ワンテンビル）

10月 ボランティアセンター訪問・懇談

10月 青年学級の人達との交流（気仙沼支援学校）

11月 気仙沼支援学校「学校祭」の手伝い

1月 通学路清掃

1月 託児ボランティア（気仙沼支援学校）

3月 災害復興ボランティア（予定）

通年 プルタブ集め

イゴコチ

三学年主任 昆 洋一

昭和五十八年の出来事である。鮭の水揚げでにぎわう小さな漁村。斜面に窮屈そうに小学校の校舎が建てられている。校庭は今にも太平洋に崩れていきそうなくらい狭く石垣にやっと支えられていた。校舎の隣には体育館ではなく「講堂」という集会をする場所だけだった。体育の時間は運動場。プールはなく、真下の海まで行き水泳というのが夏の定番だった。校舎の窓からは百八十度太平洋が見えた。正門脇の斜面には「本州最東端の小学校」と書かれたぼろぼろの看板が雑草の間に案山子のように立っていた。私を通った小学校だ。

が突然変わった。理由は覚えていないが、福島先生という、私のおばあさんと同じ年とも思える。おばあさん先生だった。大きな老眼鏡らしきメガネのレンズのさらに上から目をのぞかせ「ちゃんとできよね」というのが、福島先生の口癖だった。他の男子生徒も、胸の大きな先生がいなくなっただけなのか、冷静になったのかわからなかったが、授業時間は元気良さも残っていたが、ゆっくりと心地の良い授業時間だった。私が記憶しているのは特に道徳の時間での詩の朗読である。とても居心地の良い時間だった。このころからマンガから本を読むようになり、胸の大きな女性が嫌になった。

小学三年生の冬に担任をしていた佐々木先生が佐藤先生に苗字が変わり、直ぐに産休に入ってしまった。僕らの担任は数か月間、教頭先生だった。優等生とは程遠い私は何かする度に、石のようなゲンコツが「ドスン」と頭上から落ちてきた。褒めるところと怒るところがはつきりとしていた。4月になり、四年生のスタート。担任の先生は教頭先生から若くて胸のやたらと大きい女性の先生へ変わった。自分以外の男子はかなりはしゃいで、授業以外でも昼休みや放課後、その胸の大きい先生と行動を共にしていた。僕は、若干人見知りもあり、距離を置いていたように記憶している。クラスの中は、一見明るいクラスだが、好意にしている男子と女子の間は不穏な空気が流れている。多くの男子が率先して授業中に手を挙げている光景が今でも思い出される。私は授業がつまらなくなり、教室という空間にただ通う児童となってしまう。そんな生活が続いた。

ある日(約半年後)、担任の先生

が突然変わった。理由は覚えていないが、福島先生という、私のおばあさんと同じ年とも思える。おばあさん先生だった。大きな老眼鏡らしきメガネのレンズのさらに上から目をのぞかせ「ちゃんとできよね」というのが、福島先生の口癖だった。他の男子生徒も、胸の大きな先生がいなくなっただけなのか、冷静になったのかわからなかったが、授業時間は元気良さも残っていたが、ゆっくりと心地の良い授業時間だった。私が記憶しているのは特に道徳の時間での詩の朗読である。とても居心地の良い時間だった。このころからマンガから本を読むようになり、胸の大きな女性が嫌になった。

飛翔

情報海洋科三年担任 佐々木康竹

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。今年度の三年生は、思えば四回も教室の机を変えてきました。階上での本校舎、プレハブ、三校分離、そして今のプレハブと。震災の影響もあり、落ち着いた環境でなかなか過ごせなかったのではないのでしょうか。しかし、皆さんが乗り越え、得てきたものは、机を変える毎に大きなものになっていったのではないのでしょうか。通学に、授業に、部活に、そして進路に。想像を絶する苦勞を乗り越えてきたと思

ます。本場に立派です。震災後、最初の卒業生。校舎こそ失いましたが、今年度、皆さんが築いた実習のかたちや進路先は、後輩や、向洋高校にとって非常に大きな功績となって残りました。

私も高校を卒業して約十年。普通高校を出た自分が、大学で水産高校出身の友人と出合い、憧れを抱き、選んだ道です。彼らには熱き思いがありました。専門分野への誇り、そして友情。彼らの人間性はきつと高校生活を通じて構築されたものだったと勝手に思っています。そのため、皆さんがうらやましく思うときもあります。

どこかで聞きました。人は人によつて育つ。何気なく過ごした三年間。他では得られない、貴重な経験をしてきたはず。出会った仲間を大切に、そして培った人間性を多めに爆発して下さい。期待しています。

卒業そして、これから

産業経済科三年担任 阿部 洋平

卒業生の皆さん、そして保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。向洋高校での三年間はどのようなか。私自身産業経済科の担任として三年間を共にし、とても内容の濃い、しかしそれでいてとても短く感じます。幼い印象が強かった一年生、少しずつ部活動や学校行事で頭角を現しだした二年生、そして、震災という厳しい現実の中で当たり前前の学校生活を送り続けた三年生。それぞれの段階で多くのことを経験し自分自身を積み上げ成長を続けた三年間だったのではないのでしょうか。私の手元には産業経済科みんなの一日入学の時の写真があります。見比べると今の方が遙かに頼りがいがあり、りりしくなつたと思

す。経験がそして向洋がみんなの体の一部になっていくからだと思っています。

私自身もみんなから学びました。学校という建物や環境が奪われたとしても、一人一人が繋がってればそれがクラスとなり学校となるといふことを。そして、希望をもらいました。これから共に過ごした若い力がそのように生きる道を切り開いてゆくのかと。本当に三年間ありがとう。

どうかこれからのそれぞれの道で、持ち前の明るく元気で素直なところをしっかりと出して多くの人にかわいがられ自分の場所を作っていくて下さい。向洋がそうであつたように。

ご卒業にあたって

機械技術科三年担任 後藤 宗範

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。三年前の春、新しい制服に身を包んだ皆さんを迎えてからはや三年が経とうとしています。この三年間、思えばあつという間でした。楽しかったこと、よい思い出よりは、どちらかといえはつらかったこと、きつい記憶のほうが多い人もいるかもしれませんが、みんな本当によく頑張った。特に三年生だった昨年は、東日本大震災という未曾有の苦境を前にしながらの進路選択という極めて困難な状況に置かれながらもよくめげず、しっかりと前を向いて歩んだと思います。保護者の皆様、お子様のご卒業を心よりお祝い申し上げます。三年前のちよつと幼さを残した姿からは想像もできないほど、彼らは強く、たくましくなりました。これからそれぞれの進路を、しっかりと己の足で、踏みしめていってくれると確信しています。

編集後記

例年にくらば寒さが厳しかった冬もようやく終わり、卒業シーズンを迎えました。東日本大震災を経験しての卒業生は、生徒だけでなく、保護者の皆様にとっても感慨深いことと思います。さて、昨年末に発行した「こよう」20号が平成二十三年度宮城県高P連広報誌「コンクル」において特別賞を受賞いたしました。東日本大震災で壊滅的な被害を受け、PTA活動もままならぬ中で発行した会報が受賞したことは、ひとえにPTA役員や発行担当の調査広報委員の方々と先生方のご協力と応援の賜物だと思います。最後になりますが、一年間ありがとうございました。内海修一

PTA調査広報委員会

委員長	内海 修一	阿部 恵美
委員	菊田真奈美	小山 恵美
	千葉 京子	齋藤 美紀
	高橋 克明	尾形 昭
	菊田 力	島山 茂樹
事務局	藤田 正敏	

発行 宮城県気仙沼向洋高等学校 PTA調査広報委員会 気仙沼市九条213-3 TEL0226-22-1131, 22-1138 E-mail:chief@kkouyo-h.myswan.ne.jp 印刷/小宮山印刷工業株式会社